



高階南小学校では、理科好きの児童の育成を目指した取り組みをしています。
このページでは、児童が行っている理科の授業やクラブの活動などを紹介します。

科学クラブの取り組み

■ キツツキのおもちゃ作り

キツツキが枝をつつきながら下におりるおもちゃを、紙とストローで作りました。
キツツキがおりるしくみには、ストローと枝の間の摩擦及びキツツキの振動が関係
していて、微妙な調節が必要でした。
難易度の高いおもちゃ作りでしたが、熱心に取り組んでいました。



↑キツツキのおもちゃ

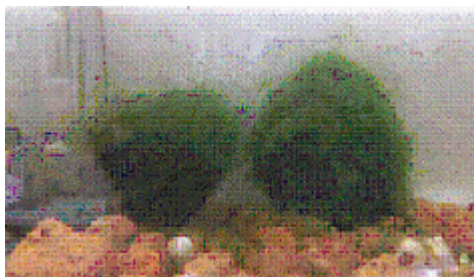


↑おもちゃ作りに取り組む科学クラブの児童

■ 「マリモはどうして丸いのか」(1学期)

本校の理科室では、以前理科担当の先生からいただいた養殖用の「マリモ」が育っ
ています。大きな水槽に約1~7cmの大きさのマリモが10個、ほとんど面倒を見
ることはありませんでした。しかし、丸いはずのマリモが変形してきたのです。

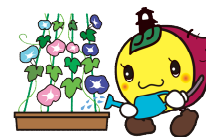
科学クラブでは、マリモはどうして丸くなるのか不思議に思い、研究することにし
ました。



↑以前いただいた養殖マリモ



↑今年購入した養殖マリモ



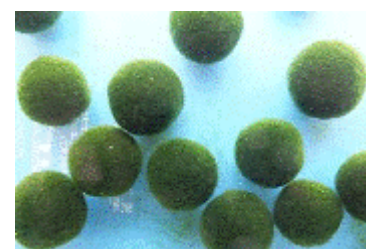
■ 「流水でできた丸いマリモ」

マリモは糸状のマリモが集まって丸い形になります。

本校では、数年前に務めていた先生より約10個ほど養殖マリモをいただき育ててきました。現在、約8cmに育ちましたがまんじゅう型、2つに割れそうな物や変形した形になっていて丸くなりません。

科学クラブの有志が学校のマリモはなぜ丸くならないのか疑問に思い、また自然の中でマリモはどのようにでき、どのように大きくなるのか不思議に思い、実験と観察と現地調査を中心に研究しました。

その結果、流水で写真のようなきれいなマリモが出来ました。この研究は、現在も継続されていて、この先が楽しみです。「マリモがどのようにして丸く育つのか」は、諸説がありますが、現在のところ、全体像がはっきり分かっていません。



※この研究は、入間地区科学教育振興展覧会において、「金賞」を受賞しました。



■ 「ぽんぽん蒸気船作り」(10月)

この授業では、各クラブ員が自分でデザインし、組み立てた「ぽんぽん蒸気船」を、理科室の水洗い場で走らせました。糸のこで船体を切り、細いアルミニウム管を曲げることに苦労しました。「ぽんぽん蒸気船」という名前からはのんびりとしたイメージが浮かびますが、作成した船はミススマシのように水面を滑るように走り、驚きと歓声が上がりました。



■ 「電気くらげふゆう実験」

細い風船とティッシュペーパーをこすり合わせ、静電気を起こす実験をしました。この静電気を利用して、スズランテープで作った電気くらげを、空中に浮かすことができました。

空中に浮かんだときは、思わず歓声が上がりました。

